

# 「しがwebアンケート調査」第2弾 第1回目（県外）の結果について

## 1. 調査の目的

県政における喫緊の課題や重要事項について、インターネットを活用し適時迅速に他府県民の意識や意向を調査し、速やかに県の方針や県政運営に反映させるための基礎資料とする。

## 2. 調査の概要

- |          |                                   |
|----------|-----------------------------------|
| (1) 調査対象 | 首都圏および京阪神地区在住の満18歳以上の個人           |
| (2) 標本数  | 1,000人（首都圏500人、京阪神地区500人）         |
| (3) 調査方法 | インターネットを利用し、パソコン、スマホ等により回答するWEB調査 |
| (4) 調査期間 | 令和2年12月3日（木）～12月7日（月）             |
| (5) 調査会社 | 株式会社クロス・マーケティング                   |

## 3. 調査項目

### テーマ：移住に関する意識

- (1) 「移住意識全般」（市町振興課）
- (2) 「農山村への移住意識」（農村振興課）
- (3) 「ワーケーションへの意識」（観光振興局）

## 4. 主な調査結果

### ■「移住意識全般」について

#### Q1 あなたは移住について関心がありますか。（1つだけ）

- ・関心がある 8.1%
- ・やや関心がある 8.1%
- ・関心とまではいかないが、気にはなっている 15.0%

となっており、全体で31.2%の方が、移住について関心がある、気にはなっていると回答している。また、年代別では、18～34歳は41.2%、35～49歳は36.9%、50～64歳は32.8%、65歳以上は19.8%と、若い世代ほど移住に関する関心が高い。

#### Q2 あなたは移住を目的に下記のような行動をしたことがありますか。（1つだけ）

- 特段の行動をしたことがない方が83.9%と大半を占めるが、行動したことがある人については、
- 1位：移住を念頭に住宅等の情報を検索したことがある 7.2%
  - 2位：地方移住に関する情報サイトで情報の収集をしたことがある 5.9%
  - 3位：雑誌や新聞で地方移住に関する記事を積極的に読んでいる 3.5%

となっており、他の項目も合わせた全体で16.1%の方が移住に向け何らかの行動を起こしている。特に住宅等の情報への関心が比較的高い。

#### Q3 あなたが移住を考えた場合、候補地として滋賀県はどの位置付けになりますか。（1つだけ）

- ・最優先の候補地である 1.6%
- ・候補地のひとつであり、優先順位は比較的高い 7.1%
- ・候補地のひとつであるが、優先順位は比較的低い 11.5%

となっており、全体で20.2%の方が滋賀県を移住の候補地と考えており、地域別で見ると首都圏の14.6%に対し、京阪神地区が25.8%と地理的要因から比較的高い割合になっていると考えられる。

## ■「農山村への移住意識」について

Q 4-1 コロナを機に「適度に疎で自然豊かな『農山村へ移住したい』という気持ち」は高まりましたか？（1つだけ）

- ・ とても高まった 3.6%
- ・ 高まった 11.6%
- ・ 特に変化はない 84.8%

Q 4-2 コロナを機に「在宅勤務やテレワークの機会が増えたことによる『農山村への移住する可能性』は高まりましたか？（1つだけ）

- ・ とても高まった 3.4%
- ・ 高まった 9.2%
- ・ 特に変化はない 87.4%

コロナを機に、農山村への移住したい意識や移住する可能性の変化について、「とても高まった」と「高まった」を合わせた割合は、「移住したい意識」が15.4%、「移住する可能性」が12.6%であった。年代別でみると両設問とも年代が下がるにつれ「高まった」割合が多くなっている。

Q 5 農山村での暮らしを試してみる機会があるなら、参加してみたいですか？（1つだけ）

- ・ 参加してみたい 23.9%
- ・ 参加したくない 76.1%

地区別、男女別とも大きな差異はなかったが、年代別でみると65歳以上の参加してみたい方は16.0%であったが、50～64歳が29.1%、35～49歳が25.0%、18～34歳が29.9%で若い世代の参加意向が高くなっている。

Q 6 農山村でのお試し暮らしの中で、経験したいことはありますか。（いくつでも）

※Q 5で「参加してみたい」方への質問。

- |                      |       |
|----------------------|-------|
| 1位 農作業               | 57.3% |
| 2位 買い物、公共機関、医療機関等の見学 | 54.4% |
| 3位 先輩移住者との交流         | 41.8% |
| 4位 町内行事への参加・交流       | 28.9% |
| 5位 小・中学校への見学         | 16.7% |

「農作業」57.3%が最も多く、次いで「買い物、公共機関、医療機関等の見学」54.4%、「先輩移住者との交流」41.8%となっている。男女別でみると「町内行事への参加・交流」が男性34.9%に対し女性が22.1%となっている。また、年代別でみると、65歳以上で「先輩移住者との交流」50.9%が「買い物、公共機関、医療機関等の見学」49.1%を上回っている。

## ■「ワーケーションへの意識」について

Q 7 「ワーケーション」とはどういうものか知っていましたか。（1つだけ）

- ・ 知っていた 21.3%
- ・ 聞いたことはあるが、良くは知らなかった 35.0%
- ・ 知らなかった 43.7%

「知らなかった」と「聞いたことはあるが、よく知らなかった」の合計が78.7%でありワーケーション自体の認知度は低い。

Q 8 ワケーションを行ってみたいですか。（1つだけ）

- ・ 行ったことがある、再度行ってみたい 0.9%
- ・ 行ったことはあるが、再度行いたいとは思わない 0.5%
- ・ 行ったことはないが、可能であれば行ってみたい 23.4%
- ・ 行ったことはなく、興味もない 75.2%

「行ったことがある、再度行ってみたい」0.9%と「行ったことはないが、可能であれば行ってみたい」23.4%を合わせると、約4分の1の方に行きたい意向がある。世代別でみると「行ったことはないが、可能であれば行ってみたい」は18～34歳の若い世代が31.4%となっており最も多い。

**Q9 滋賀県で魅力的なワーケーションプランがあれば行ってみたいですか。（1つだけ）**

- ・行ってみたい 21.7%
- ・滋賀県ではワーケーションは行わない 78.3%

年代別でみると18～34歳の若い世代で「行ってみたい」が28.4%となっており、他の年代よりも高い。地区別では、首都圏よりも京阪神地区の方が「行ってみたい」が多くなっている。

**Q10 ワーケーションを行うに当たり、最も障壁となるものは何ですか。（1つだけ）**

- 1位 特に障壁はない 37.1%
- 2位 宿泊費等の費用 18.6%
- 3位 家族の都合・理解 18.0%
- 4位 住居や職場からの移動時間 13.8%
- 5位 職場の理解 8.8%

「宿泊費等の費用」「家族の都合・理解」に障壁を感じる方が、18%程度と高い。

世代別にみると、18～34歳の若い年齢層では、障壁に「宿泊費等の費用」、「住居や職場からの移動時間」に次いで3番目が「職場の理解」となっている。